第１回　加賀温泉駅施設整備検討委員会

日時：平成 28 年 6 月 28 日（火）
　　午後 1 時 15 分から
場所：市民会館
　　会議１

次　　第

１.開　　会
　あいさつ
　委員紹介　・・・資料１

２.委員会における検討事項について　・・・資料２、３、４、５、６

３.意見交換

４.閉　　会

資料１

加賀温泉駅施設整備検討委員会名簿

役　職	ふりがな 氏　　名	所属・職
委員長	水野（みずの）　一郎（いちろう）	金沢工業大学教授
委　員	髙山（たかやま）　純一（じゅんいち）	金沢大学教授
〃	竹内（たけうち）　和良（かずよし）	加賀市商工会議所都市政策委員長
〃	上口（かみぐち）　昌徳（まさのり）	山中温泉観光協会会長
〃	萬谷（よろずや）　正幸（まさゆき）	山代温泉観光協会会長
〃	鹿野（かの）　祐司（ゆうじ）	片山津温泉観光協会会長
〃	丸谷（まるや）　朱美（あけみ）	加賀商工会議所女性会会長
〃	長谷川（はせがわ）　清（きよし）	加賀市美術協会 画　　家
〃	古場田（こばた）　良郎（よしろう）	金沢美術工芸大学非常勤講師 プロダクトデザイナー
〃	師池（もろいけ）　敬子（けいこ）	加賀まれびと交流協議会会員
〃	井野上（いのうえ）　盛光（もりみつ）	かが緑化研究会会長

事　務　局	加賀市建設部都市計画課新幹線対策室

資料２

加賀温泉駅施設整備検討委員会設置要綱

（設置及び目的）

第１条　「北陸新幹線加賀温泉駅舎デザインコンセプト」に基づき、加賀温泉駅の交通結節機能の強化、加賀市の玄関口としてふさわしい空間及び賑わいの創出を目指すため、加賀温泉駅施設整備検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（検討事項）

第２条　委員会は次の事項を検討する。

（１）加賀温泉駅南口及び北口の交通施設整備に関すること。

（２）北陸新幹線加賀温泉駅の賑わい創出のための観光、交流施設整備に関すること。

（３）北陸新幹線加賀温泉駅の駅舎デザイン及び駅舎内装の意匠に関すること。

（４）前３号の目標達成に必要な事項。

（組織）

第３条　検討委員会は、北陸新幹線加賀温泉駅駅舎コンセプト検討委員会委員及び市長が任命する委員を以って組織する。

（委員長）

第４条　検討委員会に委員長を置き、検討委員会に属する委員のうちから市長がこれを依頼する。

２　委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

（会議）

第５条　検討委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

２　検討委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

（部会）

第６条　委員会に補助組織として部会を置く。

２　部会は、観光商工部会、交通部会、デザイン・アメニティー部会の３つの部会を置く。

３　各会の部会員は、市長が指名し、委員会が承認する者をもって組織する。

４　各会の部会長は、部会員が互選する。なお、部会長は委員会の委員となる。

（事務局）

第７条　委員会の事務局は、建設部都市計画課新幹線対策室に置く。

（雑則）

第８条　この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が検討委員会に諮って定める。

附則

この要綱は、平成２８年　６月２８日から施行する。

加賀温泉駅施設整備検討範囲

施設整備検討範囲は、北陸新幹線加賀温泉駅に係る部分とする。南側においては、現在の駅前広場を基本として、先行取得により拡張される区域を含む。また、北側は在来線駅舎が整備される為、駅の乗降口として必要となる施設を整備する。

〇加賀温泉駅南側
駅前広場＋先行取得予定地
面積：約20，000㎡
〇加賀温泉駅北側
駅裏駐車場＋先行取得予定地
面積：約1，800㎡

加賀温泉駅施設整備検討部会構成表

観光商工部会	役職　氏名
山代温泉観光協会	会長　萬谷　正幸
片山津温泉観光協会	会長　鹿野　祐司
山中温泉観光協会	会長　上口　昌徳
加賀商工会議所	竹内　和良
旅まちネット	所長　佐野　立子
加賀農業協同組合	販売促進課課長　小林　圭介
石川県漁業協同組合加賀支所	支所運営委員長　中谷　英明
加賀コミュニティプラザ㈱	業務部長　吉田　司

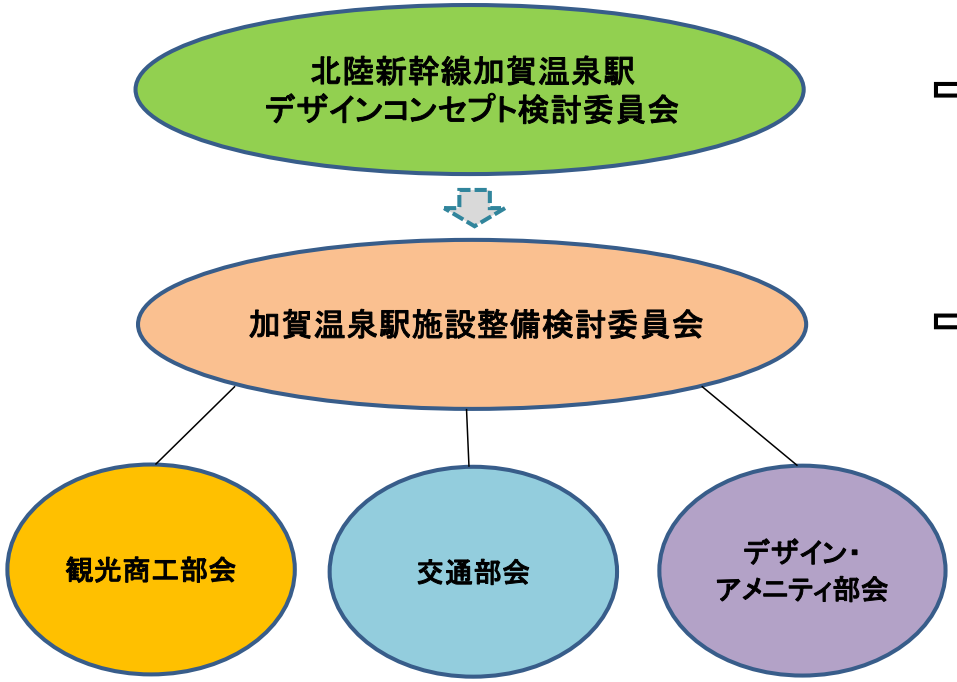
交通部会	役職　氏名
山代温泉旅館組合	理事長　新滝　英樹
片山津温泉旅館組合	代表理事　森本　康敬
山中温泉旅館組合	理事長　田向　公一
加賀温泉バス㈱	取締役社長　茜　栄成
まちづくり加賀（CanBus）	事務局長　大茂谷　啓一
石川交通	所長　齋藤　文哉
石川相互タクシー	所長　高橋　幸二
加賀第一交通	所長　永井　政秋
大交日の出タクシー	所長　横山　重蔵

ﾃﾞｻﾞｲﾝ・ｱﾒﾆﾃｨｰ部会	役職　氏名
加賀コミュニティプラザ㈱	業務部長　吉田　司
まれびと交流協議会	副会長　小中出　佳津良
加賀九谷陶磁器協同組合	理事長　山本　篤
山中漆器連合協同組合	常務理事　和田　修
加賀市美術協会	副理事　河島　洋
かが緑化研究会	会長　井野上　盛光
地元代表（作見町　かがやき部会）	中川　敬雄

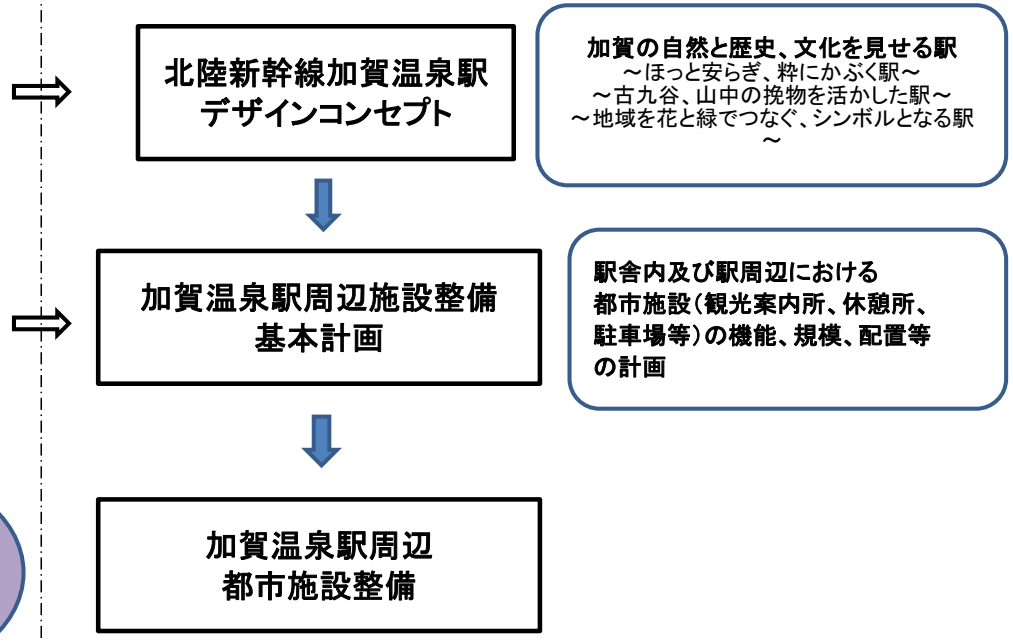
検討内容

必　要　機　能	想定される施設	検討内容
交通結節機能	バスロータリー	配置を検討
	キッス＆ライド駐車場 （通勤・通学者の送迎自家用車の駐車場）	配置を検討
	短時間及び長時間駐車場	台数及び配置を検討
	タクシー乗り場	乗り場及び駐車場の台数及び配置の検討
	旅館送迎バス駐車場	駐車場の台数及び配置を検討
	キャンバス停留場	台数及び配置を検討
	観光バス駐車場	台数及び配置を検討
	乗り合いバス乗降所	配置を検討
観　光　機　能	観光案内所	情報提供の内容、方法の検討 規模、配置の検討
	地域情報提供施設 （地域で催される行事等を紹介できる場所）	情報提供方法の検討 規模、配置の検討
	観光物産展示・販売施設	おみやげとして、従来のみやげもの以外に新鮮な農産物、水産物等の販売検討
	レンタカー等の観光関連企業事務所 （レンタカー、キャンバスなどの窓口等）	想定される事務所の配置検討
商　業　機　能	店舗、軽食、喫茶店 （待ち時間を過ごす為のスペース）	提供する食事等の内容及び配置を検討
交　流　機　能	イベント（交流）空間	イベント空間は、観光客のお出迎えの場所として、また、市民の交流の場として、多目的に使用される空間 どのような催し物に使われるか想定し、検討
アメニティ機能	公園、休憩所、トイレ等	駅利用者が快適に過ごせる空間を検討

組　織　図



施設整備の流れ



今年度の予定

6月28日	第1回加賀温泉駅施設整備検討委員会及び検討部会
8月上旬	第2回加賀温泉駅施設整備検討部会（都市施設の内容、機能、規模の検討）
10月上旬	第3回加賀温泉駅施設整備検討部会（都市施設の配置、動線の検討）
11月	第4回加賀温泉駅施設整備検討部会（基本計画（案）の内容検討）
12月	第2回加賀温泉駅施設整備検討委員会

５現状と課題

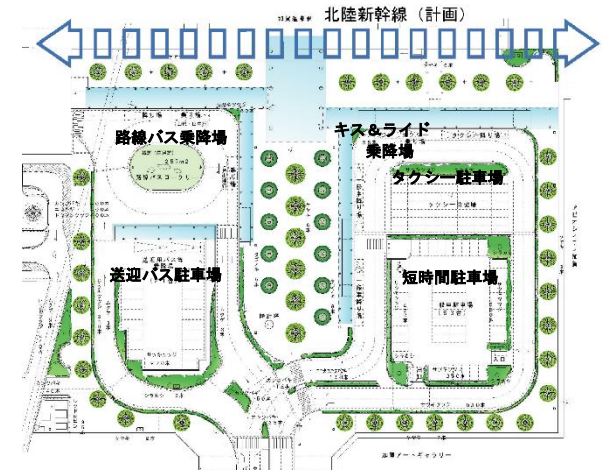
（１）交通関係

○駅北口広場、駅南口広場の再整備、駅南北通路の再整備が必要。
・駅南口広場の再整備（CANBUS・乗合タクシー乗降場、観光バス機能の導入）
・駅北口広場の整備（一般車、タクシーの機能導入）
・駅南北通路の再整備による駅南北方向の歩行者通行の安全性確保
・玄関口としてふさわしい加賀市らしい広場空間のデザイン

■駅南口広場の諸元

○現在の駅南口広場は、H2 計画時の新幹線乗降客数予測に基づき規模を決定している。

□　駅南口広場平面図　□



駅前広場施設		バース数	面　積
路線バス	乗車	２バース	370 ㎡
	降車	１バース	
	予備	２バース	
タクシー	乗車	３バース	1,000 ㎡
	降車	３バース	
	駐車場	４９台	
自家用車	停車	６バース	1,800 ㎡
	駐車場	５４台	
送迎バス	駐車場	２１台	1,110 ㎡
歩　　道			3,120 ㎡
車　　道			4,430 ㎡
広場空間等			5,170 ㎡
駅前広場総面積			17,000 ㎡

■駅周辺の現状

○CANBUS 停留所が広場外に設置されており、来外者にとって分かりづらい。
○観光バス駐車場がなく、観光機能として十分でない（温泉地を抱える他駅は３台分以上確保）。
○旅館送迎バスはピーク時に 16 台の利用。
○キスアンドライド車両のピーク時の滞留は、駅南口側で最大 22 台、駅北口側で最大 6 台。
○広場内短時間駐車場の利用率は約 40%、駐輪場の利用率は約 30%。
○パーク＆ライド駐車場（時間貸駐車場）の利用率は約 70%。
○駅南北地下通路の歩行者の安全確保が課題（ピーク時間帯約 440 人の通行有り）。
○広場中央部の環境空間が十分に利活用されておらず、また、樹形について評価が分かれるものとなっている。

■駅北口広場の整備、駅南口広場の再整備、駅南北通路の再整備が必要。

○駅南口広場の再整備（CANBUS・乗合タクシー乗降場、観光バス機能の導入）
○駅北口広場の整備（一般車、タクシーの機能導入）
○駅南北通路の再整備による駅南北方向の歩行者通行の安全性確保
○玄関口としてふさわしい加賀市らしい広場空間のデザイン

●駅南口広場の利用状況（15：00～18：00）

○温泉旅館の送迎バスについては、最大 16 台の停車が見られる。施設の収容の応力は十分にあるが、路線バスロータリー内への停車がみられる。

○タクシープールは、最大で 6 台の停車に留まり、低い利用率となっている。

○駅南口広場内においては、最大で 22 台もの車両滞留がみられ、一時的な混雑を招いている。

【温泉送迎バスの状況】

【タクシープールの状況】

【キス＆ライドの状況】

●駅北側（道路上）の状況（15：00～18：00）

○駅北口側においては、南北地下通路の入口付近において車両滞留が発生し、通り抜け車両との混在や、歩行者との交錯が生じている。
○駅南北地下通路は自転車が減速せずに進入しており、歩行者の安全確保が課題。

【キス＆ライドの状況】

【南北地下通路の状況】

●時間貸駐車場（民間駐車場）の利用状況

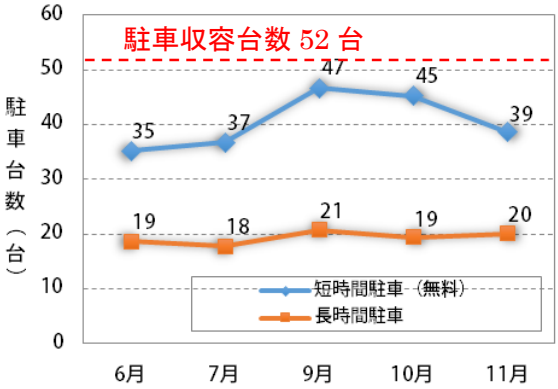
○時間貸駐車場の利用率は、休日で約 74%となっており、パーク＆ライド需要の約 65%が使用している（約 35%が商業施設内の無料駐車場を利用している）。
○駐車場の利用日数は、平均 1.27（日/台）であり、3 日以上の長期使用者は約 5%である。

【時間貸駐車場の状況（西側）】

【時間貸駐車場の状況（東側）】

●駅周辺駐車場・駐輪場の利用状況

○平成 27 年 6 月から 11 月までの市営駅前駐車場利用者の推移をみると、短時間駐車（30 分以内）は 50 台/日弱の利用であるが、長時間駐車（30 分以上）においては 20 台/日程度と低調である。利用率は 37%程度となる。
○駐輪場の利用は、最大 74（台）、利用率は 29%程度となる。



□ 駐車場利用台数（市営駐車場） □

（２）駅周辺部の駐車場について

■駅周辺部における駐車場の必要台数

駅周辺の既存駐車場台数
３４２台

＋

新幹線整備による
駐車場台数減少
－２２２台

＝

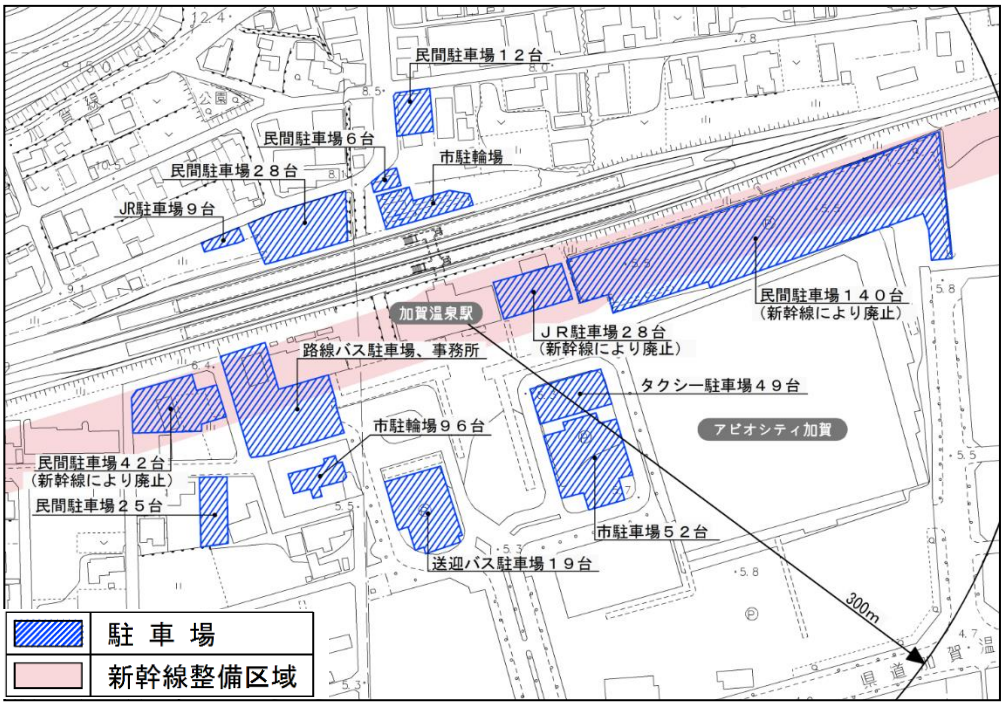
使用可能な駐車場台数
１２０台

新幹線開業後の必要台数　　５６０台

約４４０台が不足！

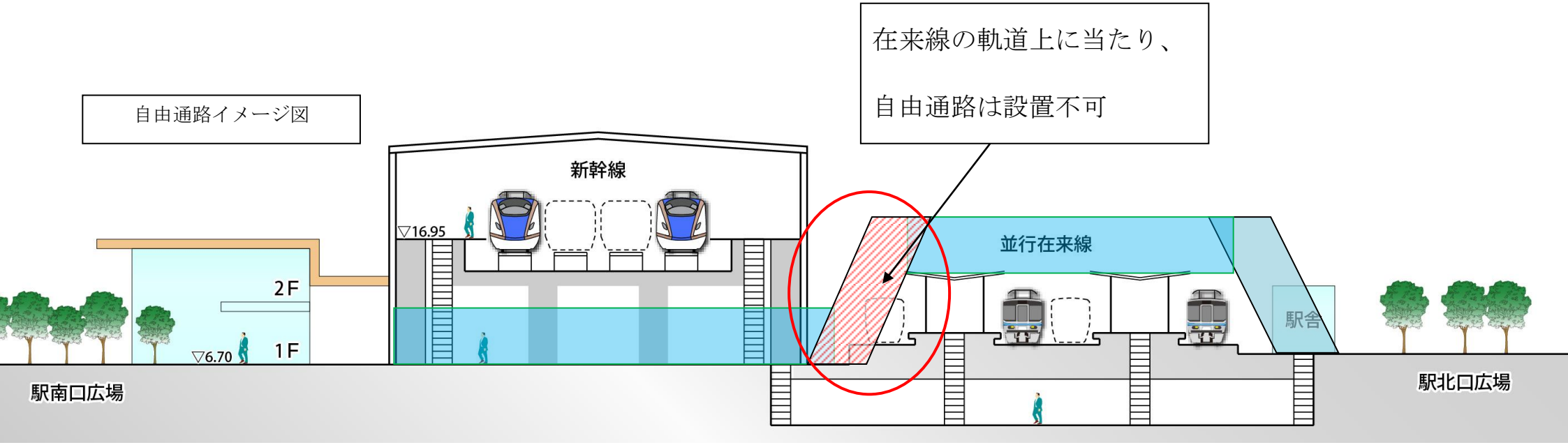
■加賀温泉駅周辺の収容台数・新幹線整備による影響台数

・現在、公共、民間を合わせて、駅北側５５台、駅南側２８７台、計３４２台の駐車場があり、内、新幹線整備・北口整備によって２２２台分が容量減となる。



（３）自由通路について

南北の自由通路は、新幹線ホームが２階にあり、在来線ホームが１．５階にあるため、通り抜けることは出来ない。



（４）地域特性等からの課題

■上位関連計画での位置付け

◎首都圏を中心とした観光誘客、豊かな自然や食材、文化を融合した「おもてなし」のこころ

◎観光入込客数 214 万人（H29 年度目標）

◎雇用の確保や生活環境の改善による人口減少の歯止め（消滅可能性都市に該当）

◎企業誘致、市内回遊性の向上、U.I ターン対策、移住・定住の促進、質の高い医療・福祉環境

◎視認性の高い緑化に重点的に取り組む（ガーデンシティ構想推進プラン）

■加賀市の地域特性

◎江沼三山、白山、柴山潟、鴨池等の自然環境

◎豊かな自然を背景とした城下町（大聖寺藩）、温泉街、港町（橋立の北前船等）、宿場町といった多種多様な歴史を持つ地域

◎これらを背景とした「九谷焼」「山中漆器」等の工芸文化を継承、総湯を中心とした宿屋群の伝統的な温泉街の構造を継承

■加賀市の観光動向

◎加賀温泉郷の入込客数 186 万人/年（H25）

◎北陸 3 県以外からの入込は約 30%（H25）

◎温泉入込は、H27 年度において新幹線効果により前年度比 10%増加

◎温泉以外の主要観光施設の入込が少ない。回遊していない。（平均周遊個所数 1.09 箇所/人）

◎周遊の足 CANBUS が過去 8 年で約 40%の利用減

⇨

■位置づけ・地域特性からの課題

①加賀温泉駅は、市内主要 6 エリアをネットワークするコンパクトシティの要（公共交通ネットワークの拠点）として、新幹線による観光誘客の拠点（インバウンド観光等）として、必要な機能の導入が求められる。

②人口減少に歯止めをかけるため、観光推進や医療・福祉環境の確保が求められる。

③加賀市特有の自然・食材・文化を融合したハード・ソフト両面での「おもてなし」空間づくりが求められる。

④市の玄関口として、多種多様な歴史を持つ地域（大聖寺・橋立・動橋など）とのネットワークの拠点として、観光情報とともに、「九谷焼」「山中漆器」などの工芸文化の情報など、歴史・文化の情報発信が求められる。

⑤江沼三山などの美しい山並み眺望の保全や、緑の拠点としての新たな整備を図ることが求められる。

⑥北陸新幹線沿線（金沢など）との連携を図り、観光客やビジネス客の誘客や交流促進が求められる。

■観光動向・駅周辺整備からの課題

①新幹線効果により増加が見込まれる観光入込について、温泉街と他観光地（橋立・大聖寺など）の連携強化を図り、回遊性を高めることが求められる。

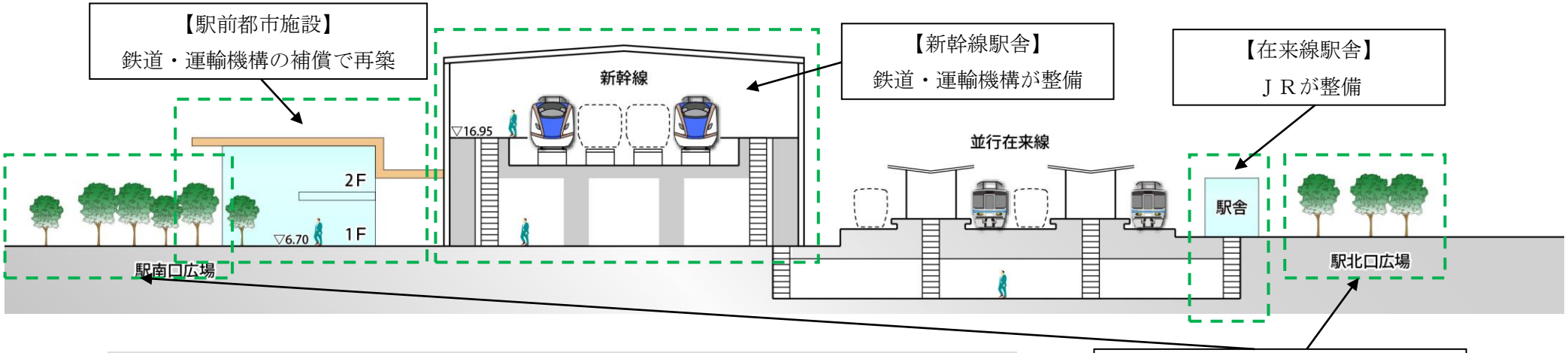
②CANBUS など、市内回遊のための交通手段となる 2 次交通への乗り継ぎの利便性や、観光地との快適なアクセスが求められる。

③医療センター（H28.4 開院）や市美術館、大規模小売店舗との機能連携が求められる。

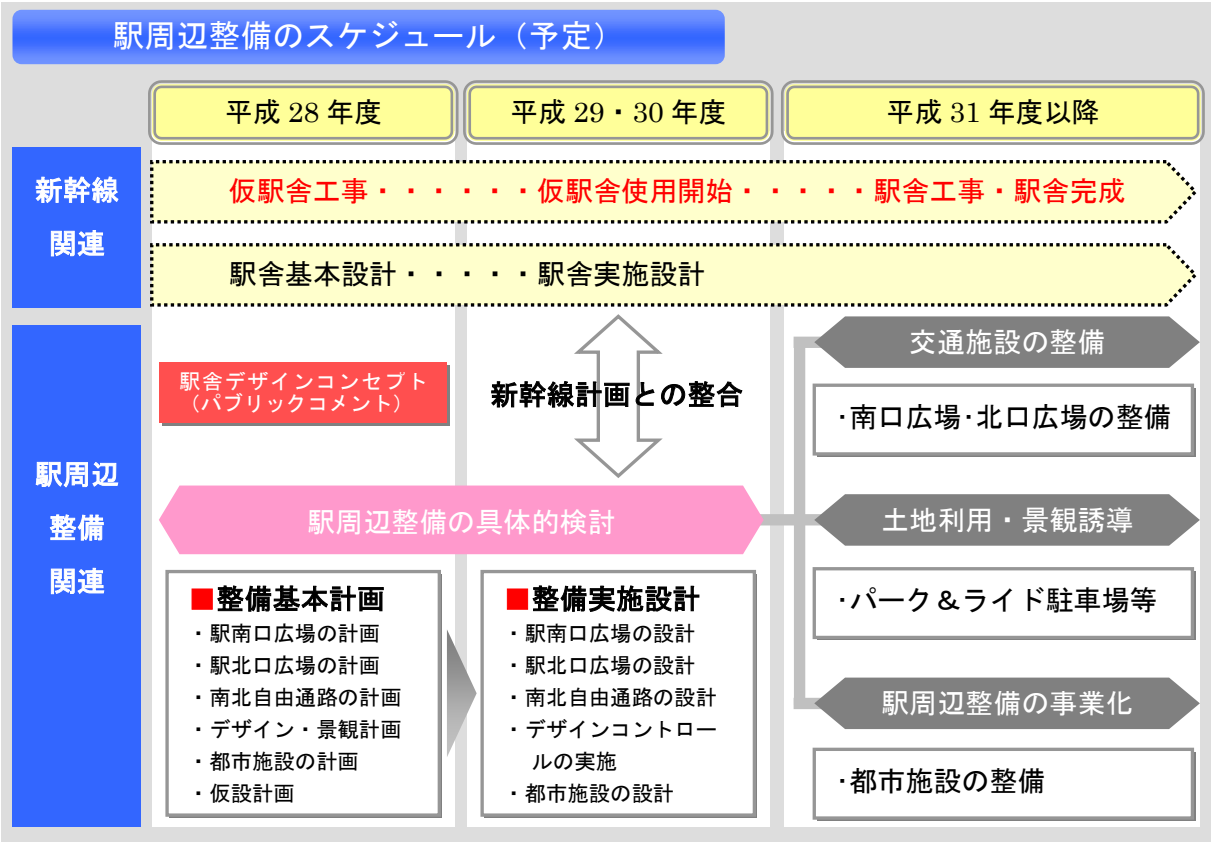
④区画整理地の住宅地の環境保全や、低未利用地の市街化促進など、定住促進に繋がる施策が求められる。

⑤広域観光の拠点駅としてだけでなく、在来線駅・生活の足としての利便性を向上させることが求められる。

（５）駅周辺の施設整備について



【広場】
新幹線工事で支障となる部分は鉄道・運輸機構の補償で再築
それ以外は、市が整備



デザインコンセプト

『加賀の自然と歴史、文化を見せる駅』

～ほっと安らぎ、粋にかぶく駅～

～古九谷、山中の挽物を活かした駅～

～地域を花と緑でつなぐ、シンボルとなる駅～

副題について

“ほっと安らぎ”は、加賀市へ来た観光客が、加賀市の海、山、平野を見て、ほっと気持ちが落ち着くこと、温泉に入ってくつろぐことを表しています。また、おもてなしにより、観光客にほっと安らいでもらおうという意味を持っております。

“粋にかぶく”は、加賀温泉駅に降り立った時、はっとするような感覚、また、ワクワクするような感覚を感じられるよう、駅の構内および駅前広場を粋に非日常的な空間とすることを表しています。

“古九谷、山中の挽物を活かした駅”は、世界に誇れる古九谷、そして卓越した挽物技術によって完成する山中漆器を駅の構内、駅前広場に活用することにより、市民にとって加賀市を加賀温泉駅を誇れる存在とすることを意味しています。また、観光客に対し加賀市が古九谷の発祥地であること、そして山中漆器の挽物技術をアピールする場とすることも表しております。

“地域を花と緑でつなぐ、シンボルとなる駅”は、山代、片山津、山中の３温泉だけでなく、大聖寺、橋立、動橋などそれぞれ多種多様な魅力を持った地域を花や緑でつなぐことにより、加賀市の周遊性を高めること、そして、加賀温泉駅がその花や緑のシンボルとなり、市民や観光客が花や緑に囲まれ、集い、交流できる場となることを表しています。